

グロントピックス

北海道立林業試験場

No.40

土そりを使って集材する



北海道内には、平成19年度現在462台の高性能林業機械が導入され(道林業木材課調べ)、中でも、ハーベスタは多機能で生産性が高いことから最も多く導入されています。しかし、このハーベスタの高い生産性に対して集材作業が追いついていない傾向がたびたびみられます。近年、生産性の高い集材方法として、グラップルローダで鉄製のそりを牽引して集材する方法(雪上ではなく土の上で使用するため「土そり集材」と呼びます)が広まりつつあります(写真)。これは、グラップルローダにより土そりへ材を積み込む、いわば大きなグラップルを持ったフォワーダです。39年生のカラマツ人工林の間伐作業で調査したところ、1時間当たり平均8.4m³の高い生産性を示しました。なお、この集材方法は、エクスカベータ(通称、ベースマシン)に与える負担が大きい(特に、足回り)ため、その改善に向けて検討して行く予定です。

(経営科)